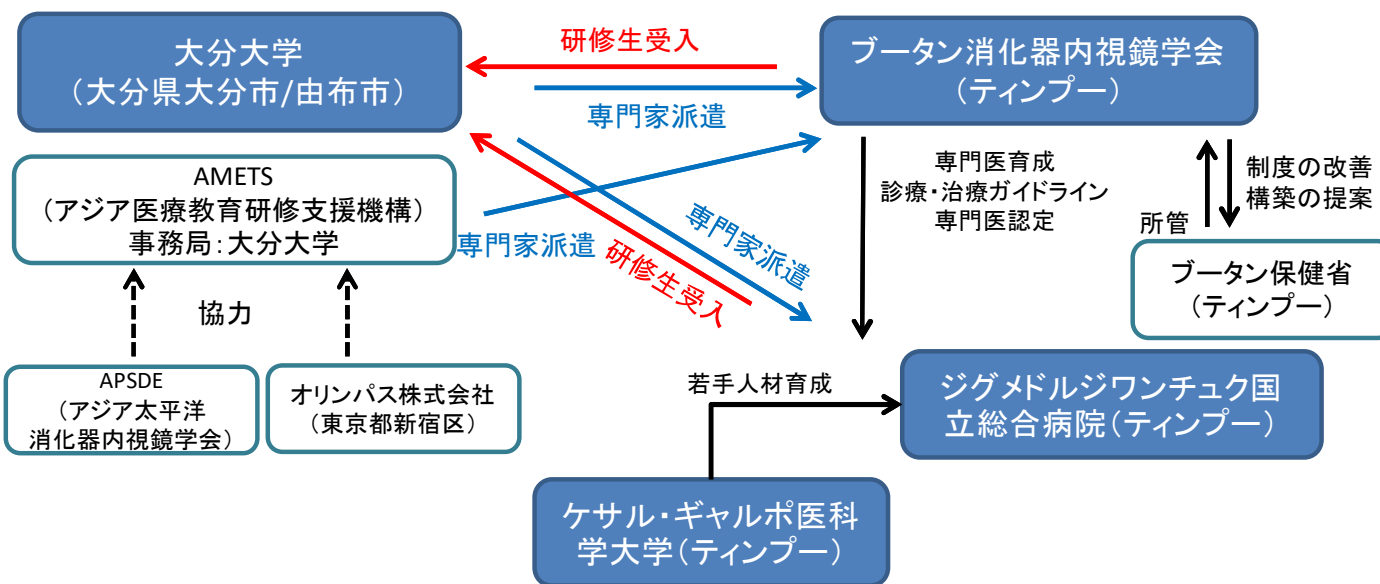


ブータン王国における内視鏡を用いた消化器疾患の早期診断と治療

- ① 【現地の状況やニーズなどの背景情報】ブータン王国における胃癌は、全癌死亡原因の第1位であり、胃癌発症率に対する死亡率の割合は90%と非常に高く、不治の病と捉えられている(胃癌死亡率は世界3位)。しかし、内視鏡医は全国で17名と専門医が不足する。
- ② 【事業目的】日本式の医療技術および医療機器を取り入れた人材育成により、指導医を育成すると共に若手医師の初期研修プログラムに取り組む。現地学会と協力し、専門医認定制度、消化器疾患の診療および治療に関するガイドライン策定を目指し医療水準を向上させる。
- ③ 【事業の概要】内視鏡医療機器は、日本企業が90%のシェアを占める。これまで、大分大学は、アジア地域における内視鏡医人材育成事業を牽引しており、本事業では、新たにブータン王国のブータン消化器内視鏡学会、ジグメドルジワンチュク国立総合病院およびケサル・ギャルポ医科大学と協力し、ハンズオンセミナー、オンライン教育および招へい事業を展開し、胃癌を中心とし、食道、胃・十二指腸疾患の内視鏡診断および治療について学ぶと共に、日本の医療技術・医療機器の取り扱い方法の習得を目指す。
- ④ 【期待される成果とその後の波及効果】日本人医師の指導により、ブータン人医師による胃癌の早期診断および治療成功率の向上を目指す。また令和7年までに、ブータン消化器内視鏡学会による日本の学会を手本とした専門医認定制度の開設に向け、学習指導要項の作成を達成する。内視鏡専門医の増加、ブータン人患者QOL向上および日本の医療技術・医療機器の普及など波及効果が期待できる。



<研修スケジュール予定>

7月、11月 詳細計画会議(オンライン)

- ・キックオフミーティング
- ・ベースライン調査(内視鏡技術レベルの把握)
- ・年間スケジュールおよび活動の確認
- ・指導計画の確認

8月、9月、2月 専門家派遣:ハンズオンセミナー(3名×2回; 8月、2月、2名×1回; 9月)

- ・消化器内視鏡診断と治療に関する技術指導
- ・臨床教育セミナー
- ・消化器内視鏡機器の取り扱いに関する初期研修

8~1月 研修生受入(1名×6回)

- ・臨床実地研修
- ・症例検討会

7月以降(月1回) オンライン研修(講師8名)

- ・症例検討会
- ・消化器疾患の臨床教育セミナー
- ・講演聴講
- ・理解度テスト(8月、11月、2月)